国際理解教育コース・英語教育専修,「英語学/英語学 I」
担当教員：秋山正宏

「英語学/英語学 I (2009 年度後期)」：授業評価アンケート結果とその考察

英語教育専修・国際理解教育コース

「英語学/英語学 I」は, 学校教員養成課程(英語専修を含む)および総合人間形成課程国際理解教育コースの英語教員免許状取得希望学生にとっての必修科目である。授業の目標, 到達目標および授業概要は以下の通りである。

授業の目標

語, 句表現, 文といった人間の言語の構成単位は, それぞれより小さな単位を組み合わせることで形成される。この授業では, 人間の言語の語形成や文の成り立ちにはどのような規則性があるのかを, 主として英語と日本語の事実に基づいて学ぶ。なおこの授業は, 一般的包括的な内容を含む中・高の英語の教員免許状取得に必要な科目であり, 中等教育での英語教育に関わるものにとって必要となる英語学についての知識基盤を提供する。

到達目標

形態論編

(1)　英語および日本語における語形成についての規則性について基本的な内容について学ぶ。
(2)　(1)により英語および日本語の複雑語を分析出来るようになる。
(3)　(2)を通して, 外国語としての英語の語彙力を身につける。

統語論編

(4)　英語における文の構造およびその形成方法について基本的な内容を学ぶ。
(5)　(4)により, 単文を中心に英語の文の構造を分析出来るようになる。
(6)　(6)により, 外国語としての英語の文, 発話を正しく理解し, 産出する力を身につける。

全体を通して

(7)　主として(1), (2), (4), (5)を通して, 論理的思考能力を身につける
(8)　主として(1), (2), (4), (5)を通して英語教員にとって必要となる英語学の知識, 国語/日本語教員にとって必要となる言語学の知識を身につける。

授業概要

まず形態論編では, 日本語と英語に関する事実の分析を通して, 語形成についての規則性について説明する。より具体的には, 形態素と異形態, 派生, 屈折, 複合語形成といった語形成に関する基本概念および主要な語形成法について正確な知識を身につけてもらう。

次に統語論編では, 主として英語の事実を中心に, (英語の)文の構造およびその形成方法について説明する。より具体的には, 語彙レベルの範疇分け(品詞分類), 階層的な句構造, 句のレベルの範疇, 句構造規則, 各種変形規則, 補部と付加部の区別といった現代言語学における統語分析で用いられる基本的概念および操作について正確な知識を身につけてもらう。同時に助動詞についての各種規則, 副詞の出現位置についての規則, 各種代用表現についての規則, wh 要素の移動に関わる規則, 削除現象についての規則, 再帰代名詞についての規則といった英語の文法現象およびその規則性にも親しんでもらう。

具体的には, 英語学, より一般的には言語学の中核的下位分野である形態論, 統語論について, 以下に挙げる基礎的な内容を学んだ。

第 1 回 導入
第 2 回 形態論 1: 形態素と異形態
第 3 回 形態論 2: 派生
第 4 回 形態論 3: 屈折
第 5 回 統語論 1: 語のレベルの範疇 (品詞分類)
第 6 回 統語論 2: 句のレベルの範疇と節構造(a)
第 7 回 統語論 3: 句のレベルの範疇と節構造(b)
第 8 回 統語論 4: 変形規則の必要性
第 9 回 形態論 5: その他の語形成
第 10 回 形態論 4: 複合語形成
第 11 回 統語論 5: 時制移動と do による支え
第 12 回 統語論 6: 英語助動詞 have, be に関わる文法規則
第 13 回 統語論 7: 節の構造と再帰代名詞の意味解釈
第 14 回 統語論 8: (wh)疑問文
第 15 回 統語論 9: 補部と付加部の区別

形態論 4, 5 が統語論 1-4 の後に行なわれているが, これは取り扱う内容が統語論で扱う内容を踏まえたものになっているからである。講義タイトルが「英語学/英語学 I」であるので, 主として英語の

言語事実の分析を通して授業が進められたが，形態論については受講者及び担当者の母語である日本語のデータも可能な限り扱うよう努めた。なお3 年次後期の「日英語比較論」との兼ね合いもあり，統語論についてはあえて日本語の言語事実を取り上げなかった。また授業は全て担当者自作のワークシートに基づいて進められた。成績評価には，持ち帰りのワークシートを使用した(第 13 回授業時に配布)。授業評価アンケートは，最終回授業時に行なった(回答者は 23 名)。

「英語学/英語学 I」は, 2007 年度(以前)の入学者に適用されるカリキュラムで言えば「英語学情報 I/英語学 I」(2008 年度まで開講)にほぼ対応する。2008 年度に開講した「英語学情報 I/英語学 I」と今年度の「英語学/英語学 I」の大きな違いは，毎回の授業時に出席カードを兼ねた内容確認シートを担当者が作成し，学んだ内容を授業終了時に振り返ってもらう機会を作った点である。なお各回の内容確認シートは，最終回授業時のものを除き，全て次回授業時に採点した上，必要があればコメントおよび質問に対する解答を添えて返却した。今回は，こうした点を踏まえ授業評価アンケートにおいて，新規のアンケート項目として以下に述べる質問 D を用意した。また授業の内容面においても，第 8 回，第 11 回，第 12 回授業時用のワークシートに大幅な修正を加え，第 14 回授業時の内容を新たに付け加えた。

以下は，授業評価アンケートの結果とそれについての解釈と考察である(回答者数は 23 名)。なお括弧内の数値は，2008 年度の「英語学情報 I/英語学 I」で行った授業評価アンケートにおける対応する質問についての調査結果である(2008 年度のアンケート回答者数は 28 名)。

A あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

1. 全く意欲がわかなかった:
   1/23 (2008 年度: 0/28)
2. あまり意欲的に取り組まなかった:
   1/23 (2008 年度: 3/28)
3. どちらとも言えない:
   6/23 (2008 年度: 9/28)
4. やや意欲的に取り組んだ:
   11/23 (2008 年度: 14/28)
5. 非常に意欲的に取り組んだ:
   4/23 (2008 年度: 2/28)
   平均値: 3.695 (2008 年度: 3.535)

肯定的な評価(4 ないしは 5)をした学生数が 15/23(65%)であり, 2008 年度の 16/28(57%)よりもやや数値が上がっている。平均値も僅かながら前年より上がっているが, 1 の評価をした学生が 1 名とはいえ存在する。より多くの学生が意欲的に取り組める授業を行うことに努めねばならない。

B　この授業で使われたワークシートについてお尋ねします。

B-1　全般的に言って，ワークシートの作業の難易度についてどう思いますか。

1. 非常に難しかった: 0/23
   (2008 年度: 1/28)
2. やや難しかった: 9/23
   (2008 年度: 12/28)
3. ちょうどよい: 13/23
   (2008 年度: 13/28)
4. 比較的やさしかった: 1/23
   (2008 年度: 1/28)
5. 非常にやさしかった: 0/23
   (2008 年度: 1/28)
   平均値: 2.652 (2008 年度: 2.607)

「ちょうどよい」の評価をした学生が 13/23 (56%)であり, 2008 年度の 13/28 (46%)よりも向上を見ることが出来た。ただし平均値には大きな差が見られないため，先述のワークシート修正にどの程度の効果があったのかを測り知ることは出来ない。

B-2　それぞれのワークシートの種類，難易度に左右される部分が多いと思いますが，全般的に言ってワークシートに沿ったかたちで進められた担当教員の話しは分かりやすかったですか。

1. 非常に分かりにくかった:
   1/23 (2008 年度: 2/28)
2. やや分かりにくかった:
   0/23 (2008 年度: 2/28)
3. どちらとも言えない:
   4/23 (2008 年度: 5/28)
4. 比較的分かりやすかった:
   12/23 (2008 年度: 14/28)
5. 非常に分かりやすかった:
   6/23 (2008 年度: 5/28)
   平均値: 3.956 (2008 年度: 3.642)

肯定的な評価をした学生数が 20/23 (86%)であり, 2008 年度の 19/28(67%)よりも数値を上げることが出来，平均値も 2008 年度より多少上がっている。また否定的な評価(1 ないしは 2)をした学生数

が 1/23(4%)であり，2008 年度の 4/28(14%)に比べて減少している。今後もワークシート等の修正および板書事項の工夫を重ねることで，わかりやすい授業を行うことに努めたい。

B-3　ワークシートの作業から学んだ内容およびそれに関連する担当教員の話しは，(難易度は別にして)あなたにとっておもしろい(知的好奇心をくすぐる，といった意味で)ものでしたか。

1. 全くおもしろくなかった:
   0/23 (2008 年度: 0/28)
2. あまりおもしろくなかった:
   3/23 (2008 年度: 2/28)
3. どちらともいえない:
   6/23 (2008 年度: 10/28)
4. 比較的おもしろかった:
   11/23 (2008 年度: 13/28)
5. 非常におもしろかった：
   3/23 (2008 年度: 3/28)
   平均値: 3.608 (2008 年度: 3.607)

肯定的な評価をした学生数は 14/23 (60%)であり，2008 年度の 13/28 (57%)とほぼ変わらなかった。平均値も 2008 年度と全くといってよいほど変化はなかった。ただ否定的な評価をした学生の比率(3/23 (13%))が若干 2008 年度(2/28 (7%))に比べて上がってしまっている。言語の規則性を科学的に考えることの面白さが伝わるような授業にする工夫が，もう少し必要なのかもしれない。

C　この授業の担当教員に関してお尋ねします。
C-1　担当教員は，受講者にとって参加しやすく，かつわかりやすい授業を行おうとする努力，工夫をしているように感じられましたか。

1. 全く感じられなかった：
   0/23 (2008 年度: 0/28)
2. あまり感じられなかった:
   1/23 (2008 年度: 0/28)
3. どちらとも言えない:
   6/23 (2008 年度: 5/28)
4. 比較的強く感じられた：
   11/23 (2008 年度: 18/28)
5. 非常に強く感じられた：
   5/23 (2008 年度: 5/28)
   平均値: 3.869 (2008 年度 4.00)

肯定的な評価をした学生数は 16/23(69%)であり，2008 年度の 23/28(82%)に比べるとかなり数値を下げてしまっている。平均値もやや下がった上に，否定的な評価をした学生が 1 名存在する。原因は不明であり，今後の検討課題としたい。

C-2　担当教員は，受講者の意見や疑問をくみ取り，かつそうした意見や疑問に真摯に答えようとしているように感じられましたか。

1. 全く感じられなかった:
   0/23 (2008 年度: 0/28)
2. あまり感じられなかった:
   1/23 (2008 年度: 1/28)
3. どちらとも言えない:
   1/23 (2008 年度: 8/28)
4. 比較的強く感じられた:
   13/23 (2008 年度: 14/28)
5. 非常に強く感じられた:
   8/23 (2008 年度: 5/28)
   平均値: 4.217 (2008 年度: 3.821)

この問については，肯定的な評価をした学生数が 21/23(91%)と高く，2008 年度の 19/28(67%)からも大きな向上が見られる。次の問にも関連するが，毎回の授業で出席カードを兼ねて内容確認シートを使用し，返却時に必要があれば質問に対する解答を添えていたことがこの結果に反映したのではないかと考えられる。

D　各回の内容確認シートについてお尋ねします。内容確認シートは，当該の回に学んだ内容を振り返ったり，理解を深めたりするのに有益だと思えましたか。

1. 全く有益には思えなかった:　0/23
2. あまり有益には思えなかった:　0/23
3. どちらとも言えない:　2/23
4. 比較的有益なように思えた:　17/23
5. 非常に有益なように思えた:　4/23
   平均値: 4.086

この問は上述の通り，今年度初めて設けた質問項目であるが，肯定的な評価をした学生数が 21/23(91%)と高く，平均値も比較的高いものと言える。内容確認シートを設けた点は，好意的に評価されているものとみてよいだろう。また質問 C-2 で述べた点も，内容確認シートに対する評価の高さにつながっているのではないだろうか。

E　最終課題の持ち帰りワークシートについてお尋ねします。持ち帰りワークシートは，この授業

で学んだ事柄あるいは考え方について，再度復習したり理解を深めたりするのに有益だと思えますか。まだ持ち帰りワークシートの作業を始めていない人，あるいは眺めてもいない人はこの問に回答しなくて構いません(回答者 21 名，2008 年度の回答者は 24 名)。

1. 全然有益ではない:
   0/21 (2008 年度: 0/24)
2. あまり有益には思えない:
   1/21 (2008 年度: 1/24)
3. どちらとも言えない:
   2/21 (2008 年度: 3/24)
4. 比較的有益なように思える:
   15/21 (2008 年度: 13/24)
5. 非常に有益なように思える:
   4/21 (2008 年度: 7/24)
   平均値: 4.095 (2008 年度: 4.083)

この問については，肯定的な評価をした学生数が 19/21(90%)であり，成績評価に用いるワークシートとは言え，受講者がその内容にある程度納得していることを示すと考えられるかもしれない。最終課題には，成績評価という目的だけではなく，学習内容の整理・確認という目的もあるのであるから，持ち帰りワークシートの充実に向けて今後も努力を重ねたい。

F　あなたは，この授業を通して，外国語としての英語，母語としての日本語，あるいはより一般的に人間の言語が持つ規則性に興味・関心が向くようになりましたか(2008 年度の回答者数は，未記入者が 1 名いたため 27 名)。

1. 全くそういった興味・関心が持てなかった:
   0/23 (2008 年度: 0/27)
2. あまりそういった興味・関心が持てなかった:
   1/23 (2008 年度: 2/27)
3. どちらとも言えない: 3/23 (2008 年度: 5/27)
4. そういった興味・関心をやや持つようになった: 15/23 (2008 年度: 12/27)
5. そういった興味・関心を非常に強く持つようになった: 4/23 (2008 年度: 8/27)
   平均値: 3.956 (2008 年度: 3.962)

肯定的な評価をした学生数が 19/23 (82%)であり，2008 年度の 20/27 (74%)よりも向上しているが，5 の評価をした学生数が 4/23(17%)であり，2008 年度(8/27 (29%))に比べて人数の上でも比率の上でも減ってしまったことは残念である。ただある程度言語の規則性についての関心を掻き立てることが出来たと考えてよいだろう。

G　最後にこの授業全体を振り返って，何か一言

この自由記述に回答した学生数は 16/23 であったが，全面的に否定的な評価を書いた学生はいなかった。毎回のワークシートとそれに基づく作業という，この授業の特色を肯定的に評価する意見もみられた。

まとめ

全般的に言って，アンケート結果から判断する限り，この授業に対する評価はまずまずと見てよいだろう。特に毎回配布した内容確認シートに対する評価が高く，次年度以降もこの形態を継続する必要性を強く感じている。

ただ各回の授業を担当者として振り返ってみると，多くの学生が熱心に作業を行っていた回もあれば，そうでなかった回もあったように思われる。各回で取り扱うテーマおよびそれを反映する各回のワークシートの作業の難易度の差に因る部分も大きいとは思うが，ワークシートを始めとする各種資料の充実，内容の改訂を図ることで，熱心に作業を行わない学生の数を減らす工夫を重ねていかねばならないであろう。